



特集



三豊市・洞爺湖町 友好都市提携50周年

香川県旧財田町と旧洞爺村が
1975年、姉妹町村の絆で結ば
れてから、小学生をはじめ、多く
の住民が交流を深めてきました。

今年は提携50周年を迎えた節目

の年。二つのまちの交流は三豊市
と洞爺湖町に受け継がれ、現在も
脈々と続いています。この特集で
は、三豊市とのつながりや三豊市
に由来する文化を紹介するととも
に、友好都市提携50周年記念事業
の様子を掲載します。

この機会に三豊市について知
り、より身近に感じていただけ
ると幸いです。

― 特集 3～5ページ ―



“三豊市”って こんなまち！

四国地方・香川県の西部に位置する、人口約5万7千人のまちです。平成18年に旧財田町をはじめとした7町が合併し、三豊市となりました。



「フルーツ王国みとよ」というキャッチフレーズがあるように、モモやミカン、ブドウの生産が盛んなほか、県内では最大のお茶の生産地で「高瀬茶」が有名です。

「うどん県」と呼ばれる香川県はその名の通り讃岐うどんが名物。三豊市にも美味しいうどんが食べられるお店が多く並びます。また、水面が鏡のようになる写真が撮影できる「父母ヶ浜」などの人気スポットもあり、多くの観光客が足を運んでいます。

祖先を同じくするまちの新たな関係 提携までの道のり

三豊市との縁

旧虻田町と合併して洞爺湖町となる前、旧洞爺村は1887年に香川県の旧財田町などから約70人が初めて入植し開拓されました。現在も香川県でよく耳にする「大西」、「岩倉」、「近藤」などの苗字が残り、開拓時代から続く血縁を感じさせます。

「祖先を同じくする両町村で、さらに友好を深めていきたい」という人々の想いから、1975年4月1日に旧財田町、旧洞爺村の間で友好都市提携の前身となる「姉妹町村盟約」が結ばれ、住民同士の交流を始めました。



姉妹町村盟約は電話を通じて結びました

絆を改め「友好都市」へ

2006年、両町村が三豊市、洞爺湖町へ合併後、これまで同様の交流や新たな友好関係の構築に向け、2007年7

月1日に「友好都市提携」を締結。以来、小学生同士が両市町を訪問する「フレンドリーツアー」をはじめとする様々な交流を続けています。

また、2012年4月6日には「災害時相互応援協定」を締結し、災害時の職員派遣、生活物資の提供などの円滑な相互支援が可能になりました。



フレンドリーツアーの様子
(カヌー体験、うどん作り、いも堀りなど)



洞爺湖町役場で友好都市提携の締結

現在も受け継ぐ香川の伝統

ちようさ

洞爺夏まつりで勇壮に練り歩く「ちようさ」は2003年、旧財田町から贈られたものです。西日本を中心に五穀豊穡や豊漁を祈願する祭礼で用いられている太鼓台です。大きいものでは高さが5メートルに及ぶものもあり、華やかな装飾が観客の目を引きまします。



獅子舞

町内の香川、曙、月浦の各地区には獅子舞が奉納されています。旧洞爺村に入植した移住者から伝わり、現在もほぼ当時のまま継承されています。

2024年11月には、

月浦獅子舞が約120年ぶりに里帰りを果たし、香川県のイベント「獅子舞王国さぬき」で舞を披露しました。



紡いだ絆をこれからも

友好都市提携 50 周年記念事業

7月5日 記念式典

役場防災研修ホールで「友好都市提携50周年記念式典」が行われ、三豊市から山下昭史市長、市議会の丸戸研二議長など計17人が来町しました。

山下市長は「歴史を未来につなぐため、経済に文化と多方面での連携が大切です。いつまでも家族のような付き合いを続けましょう」、下道町長は「三豊市との友好関係はかけがえない財産。これからもより一層強固にしたいです」とあいさつ。互いに友好都市提携50周年確認書に署名しました。また、記念品として三豊市は父母ヶ浜、町は洞爺湖などの写真を交換しました。



①来町した山下市長(右)を出迎える下道町長 ②式典での記念撮影 ③三豊市から贈られた父母ヶ浜の写真



③

7月6日 第46回洞爺産業まつり

洞爺中央公園で開催され、町内外から訪れた約5千人でにぎわいました。

三豊市産のモモを販売するテントは多くの来場者の目に止まり、まつりの終了時間を待たずして完売しました。また恒例の「野菜まき」には山下市長や丸戸市議長議長なども参加。野菜をキャッチしようと呼びかけ、湖畔に集まる来場者へ力いっぱい投げっていました。



④



⑤



⑥

④産業まつりへ参加した三豊市長や市議会議員 ⑤三豊市のモモを販売したテント ⑥野菜を投げる三豊市長など